二十七日、林王の宅にして、但馬按察使橘奈良麻呂朝臣に餞する宴の歌三首

四二七九番

能登川の　後には逢はむ　しましくも　別るといへば　悲しくもあるか

四二八〇番

立ち別れ　君がいまさば　磯城島の　人は我じく斎ひて待たむ

四二八一番

白雪の　降り敷く山を　越え行かむ　君をそもとな　息の緒に思ふ